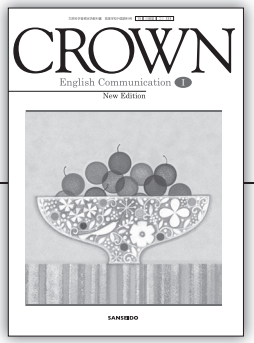
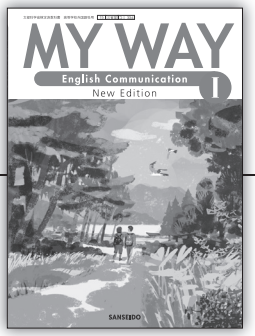
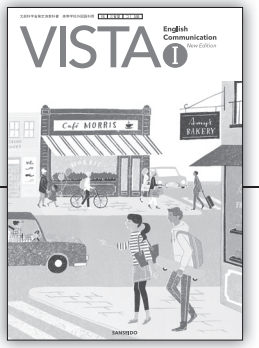
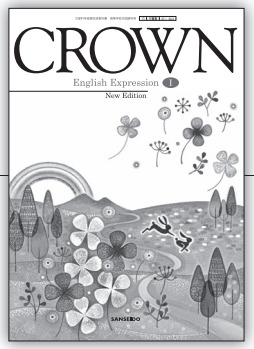
教科書を使った アクティブ・ラーニング

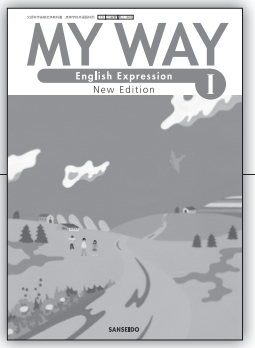
～ 主体的，対話的で深い学びの実現のために ～

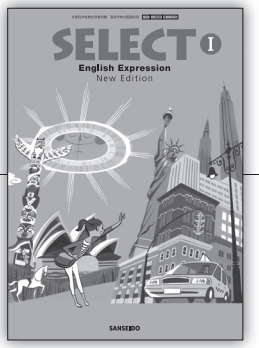












インタビュー

アクティブ・ラーニングで授業を楽しく演出しよう　安河内哲也 …… 2

教科書を使ったアクティブ・ラーニングの提案

- 『CROWN English Communication Ⅰ New Edition』　津久井貴之 …… 4
- 『MY WAY English Communication Ⅰ New Edition』　中島利恵子 …… 6
- 『VISTA English Communication Ⅰ New Edition』　工藤　洋路 …… 8
- 『CROWN English Expression Ⅰ New Edition』　津久井貴之 ……10
- 『MY WAY English Expression Ⅰ New Edition』　中島利恵子 ……12
- 『SELECT English Expression Ⅰ New Edition』　工藤　洋路 ……14

アクティブ・ラーニングで授業を楽しく演出しよう

安河内 哲也

東進ハイスクール講師。学習参考書の執筆，講演のほか，英語教育記事のサイト『えいご ism』の運営やスピーキングテスト E-CAT の開発など，英語学習者のために精力的な活動を展開

聞き手　三省堂編集部

編集部　今日は，予備校英語講師であり，文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」委員もなされ，アクティブ・ラーニング（以下 AL）の第一人者の安河内哲也先生をお招きして，英語の AL 型授業について教えていただきたいと考えております。まずいま，なぜ AL の授業なのか，時代背景とともに教えていただけますか。

安河内　従来の日本の英語学習は，外国の知識や技術を吸収して外国に追いつけ追い越せという国是があったので，その目的には，文法を理解して，文献を読み，それらを訳すことが重視され，そのことで一定の役割は果たしてきたという歴史があります。

しかし，いまやスカイプを通じて，外国の人たちと会議をする時代です。英語を英語のまま理解して，英語で考えたことをそのまま英語で伝え合う時代です。社会がそうなってきている以上，英語の学習のしかたも変わっていかなくてはなりません。

そこで，AL 型授業となるわけですが，AL とは何かという定義があいまいで，口が動いていれば AL 型授業なのか，いや頭が動いているのが（つまり考えているのが）AL 型授業なのか，ペアやグループでやると AL 型授業なのか，人によって考え方は違うと思います。しかし，そのように AL 型授業のとらえ方に幅があろうとも，英語はそれらに十分対応できる教科と言えます。そもそも英語は AL 型授業でなくてはならない教科だったと思います。それが時代の要請で，文法訳読式や講義型の授業だったりしていたのですが，それがいまの時代になって，ようやく本来の形が浮かび上がってきたといったところです。

私は予備校の講師で，以前は講義型の授業をしていました。自分のトークで生徒を惹き付けることにエネルギーを注いでいました。しかし，内心，こういうのは，本来の語学の学習ではないだろうとは思っていました。文科省の諮問委員の仕事をいただいたのをきっかけに，それまでの授業スタイルをガラッと変えました。日本語を主，英語を従で進めていたのを逆転させ，講義型の授業から生徒中心の授業にしたのです。そうしたら，生徒が変わりました。講義型のときは，どんなにおもしろい話であっても退屈そうにしている生徒がいたのですが，生徒中心の授業では，そのような生徒がいなくなりました。

編集部　先生は都内の私立学校である麹町学園女子中学校・高校の英語教育のアドバイザーとなっておられて，AL 型の授業を推進していらっしゃいますね。この学校の取り組みを例に，英語の AL 型授業の一端を教えていただけますか。

安河内　インプット部分では，音声を中心にした授業をこころがけ，教科書の本文の音読を重視しています。デジタル教科書の音声を使いながら，文字あり，文字なし，リピート，サイトトランスレーション，シャドーイング，オーバーラッピング，穴埋め音読など，Listening と Reading をふんだんに行います。注意したいのは，字面だけを追った音読にならないように，活動の後に，内容の理解度を自己評価でチェックします。

アウトプットに関しては，読んだ内容について，1 分間程度のスピーチをさせたり，短いエッセーを書かせたりします。内容によっては，賛成か反対か，その理由について evidence を示しながら，意見を述べるような課題を与えることもあります。それらのことを，まず自分のメモをとらせ，次にペアまたはグループでスピーチをしあい，グループ代表がスピーチをクラスに向けて発表，最後は各自がエッセーを書く，といった流れで，個→小グループ→クラス全体→個のようにさまざまな形態を織り交ぜながら，アウトプットの活動に取り組ませます。

文法の解説や本文の構造的な分析，日本語訳などは，プリントを渡してしまって，自力で学ばせるようにしています。自分のわからない部分はどこかを認識して，プリントで確認したり，調べたりする，これも一種の AL だと思うんですね。そして，授業では，生徒が大勢いることを活かした活動をするようにしています。

評価についてですが，定期試験は授業が教科書を徹底的になめつくすようにやっているので，教科書からしか出題しません。ただし，範囲はいままでやったところ全部としていて，学期や学年が進むにつれて，範囲が広くなっていく，という具合です。積み重ねがいかに大事か，生徒は骨身に感じています。

ライティングの評価ですが，文法やスペルなどのチェックは ALT にもお願いします。英語科の教員は，統一のルーブリックを作り，生徒と共有します。そして，それに基づいて作文のパフォーマンスを観ていきます。

AL 型授業に取り組むようになって，成果が目に見えて表れてきています。資格試験等のスコアや合格数が一気に伸びました。

編集部　AL 型授業をすすめるにあたって，コツや Tips を教えてください。まず，教科書はどう扱うかなどについて。

安河内　まず，教科書のレベルは生徒のレベルにあった適正なものを選ぶ必要があります。高めのレベルのものの長文読解をしていっぱいいっぱいになるのではなく，4 技能型の授業ができるようなものを選びたいところです。それ以上のものを望む生徒がいるとすれば，それは個別に対応して，自力で学ばせるようにして，多くの生徒がその教科書が目指すレベルに達成させるのが，学校の役割だと思います。いま，麹町学園では標準レベルの教科書 *MY WAY English Communication*（三省堂）を使っていますが，これをしっかりやれば，センター試験や準難関までの受験は全く問題がありません。単語集も付属しており，AL には最適です。おすすめの教科書です。

編集部　英語で授業ということについては何かサジェスチョンはありますか。

安河内　AL 型授業では，教師は自分が話すのではなく，生徒に話させる，生徒に汗をかかせるようにしかけるのが仕事です。「しゃべり屋」から「しゃべらせ屋」になるように意識してほしいです。余談ですが，テレビの語学系バラエティ番組の司会をやっているのですが，乃木坂 48 のみなさんに英語のアクティビティをやってもらっています。司会としては，自分が目立つのではなく，彼女たちにいかに活躍してもらうかを意識して声掛けしたり，動いたりしなくてはならず，とても勉強になります。授業での教師と生徒との関係もそんなことではないでしょうか。

それと教師は授業をうまくやることをめざすのであって，英語をうまく話すことが目的ではないはずです。英語は発音や文法の間違いを気にしていては，話せません。ハードルを下げて，生徒のレベルに合わせて，でもどんどん使う，というつもりで取り組まれたらどうでしょうか。授業で話すのに慣れてくれば，おのずと英語を話すのが上達していきます。

編集部　学習環境についてはどうでしょうか。

安河内　AL 型授業で欠かせないのは，ICT ツールです。昔ながらのチョーク＆トークから一歩でて下さい。これらを使うことで一気に授業に立体感が生まれます。プロジェクターで投影すれば，板書の時間が省け，生徒の顔が上を向き出します。さらに，教師の英語もよいのですが，やはりネイティブの音声を聞かせたいですよね。デジタルテキストを使えば，絵，文字，音が一体となって提示できます。

編集部　最後に，いままでの授業から一歩踏み出したいと思っている先生がたに，先生からメッセージをお願いします。

安河内　先生がたには，授業を楽しんでもらいたいです。授業の準備をすること，そして授業を実践することを楽しみましょう。先生が楽しめば，生徒も楽しく英語に取り組みます。授業が楽しければ，彼らは，授業外でも英語を使うことを楽しむはずです。先生がたを応援する意味で，次の 3 つの言葉を贈りたいと思います。

Enjoy making mistakes.（間違えを楽しもう）
Be more self-confident.（もっと自身を持とう）
Speak in a loud voice.（大きな声を出そう）

CROWN English Communication

「対話的学び」は生徒同士＋本文との対話を意識しよう

（*CROWN English Communication I* Lesson 10）

＊本稿以降の各教科書の提案では，新学習指導要領の趣旨を活かし，アクティブ・ラーニングの概念を，主として「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の表現を使って解説しています。

津久井　貴之

お茶の水女子大学附属高等学校 教諭。群馬県内中学校，国立大附属中学校，中等教育学校教諭，県教育委員会指導主事を経て現職。2011 年（財）語学教育研究所よりパーマー賞受賞。

1．教科書本文を活用した対話的学びのポイント

教科書題材として扱われているトピックやテーマと語彙や文法，表現の仕方などが吟味された教科書本文を用いて「主体的・対話的で深い学び」を実現するにはどうしたらよいだろうか。

ここでは，特に「対話的な学び」という視点から次の２つのポイントを取り上げたい。

（1）　互いの知識・技能や既習の経験を生かせる場面があるか，また，それらを共有する必然性があるか。

（2）　テキストのメッセージやそこで描かれている人物，状況，著者の思い，作品の背景について，教科書本文を中心に様々な資料を参考にして読み取り，得た情報を比較したり吟味したりして英語で表現できるか。（テキストとの対話）

2．教科書本文の構成を生かした指導計画

教科書本文を用いた対話的な学びの実現には，ゴール設定から逆算して１つのレッスンをどのように扱うかが大切である。また，「１セクションを１時間で扱う」という指導計画（？）から脱することが求められる。

〈指導計画例：Lesson 10〉

目標：ピーナッツの漫画や作者の生い立ちなどから，作者が漫画で伝えようとしているメッセージを自分なりの英語で書くことができる。	
時	主な活動等
1	・ピーナッツのキャラクター紹介やキャラクターグッズに関する教師の説明を聞く。 教科書本文を読む，音読する。 新出語彙・文法の学習をする。
	【家庭学習】 ・Section 1 の音読をしてくる。 ・最も好きなキャラクターについて紹介文を書いてくる。
2	最も好きなキャラクターを紹介し合う。 ペアでセクション２と３の漫画の担当を決め，概要とメッセージを伝えられるよう，同じセクションを担当する３～４人が集まりグループ学習を行う。
3	同じセクションを担当した生徒同士でペアになり，英語で説明できるように練習し，伝え方や表現方法のアドバイスをし合う。
4	第２時のペアになり，自分が担当しなかったセクションの漫画を読む。 補足説明として，話の概要やメッセージを英語で説明し合う。 漫画の理解度や捉えたメッセージに関する互いの説明を確認し合うために，セクション２と３を読む。 （ここで初めて開本して，CD を聞きながら本文を目で追う。）
5	セクション２と３の音読をする。 前時の活動を違うペアで再度行う。 セクション４やピーナッツの作者に関する資料（英文や映像）を読んだり見たりして，作者の生い立ちや作品の背景を理解する。
6	これまでの学習を基に，ペアでセクション５の英文の意味を考え，英語で書き換える。 各生徒の英文を鑑賞し合う。

※教科書準拠音声 CD を生徒がもっている前提。
※第１時では，Optional Reading のキャラクター紹介を活用することもできる。

3．第４時の具体例

前述の指導計画の第４時で，対話的な学びを実現するための工夫は以下の５点である。

①　漫画とともにその説明（教科書本文）が併記されているので，漫画のみをワークシートなどにして生徒に読ませる。

②　そのセクションの担当生徒の英語による説明を聞くことで，漫画の理解を助けることができるようにする。

③　新出語彙などについても，担当生徒に質問するなどして教え合う。

④　互いの説明を終えたところで，教科書をこの単元で「初めて」開かせ，セクション２・３の教科書本文を読み，それぞれの漫画のもつメッセージを理解する。

⑤　自分たちが捉えたメッセージや説明に用いた表現と教科書本文の違いについて振り返る。

> **2**
>
> It is Father's Day and Violet is talking about her father. She tells Charlie Brown that her father is richer than Charlie Brown's dad, and that he is better at sports. Charlie Brown has little to say. He just asks Violet to come with him to his father's barbershop. He tells her that no G-2 matter how busy his father is, he always has time to give him a big smile because he likes him. Violet has nothing more to say. She simply walks away. Her father's money and athletic ability cannot compete with a father's simple love for his son.

①では，教科書本文と併せて掲載されているエピソード（漫画１話分）の関係を事前に教師が意識しておく必要がある。漫画の内容が分かれば，本文は必要がないし，本文の内容が全て分かるのであれば，その後に漫画を読んでも面白くないであろう。常に，素材としての教科書をどのように加工するか，という視点が必要である。

②では，全ての生徒が同じものを読み，同じ内容理解をした前提で，インタラクションを行っても，そこに必然性は生まれない。聞く側は，互いの生徒の説明をよく聞くことで，漫画の理解の補助となる。また，説明する側からすれば，説明する目的があるということになる。「セクション２と３を全員が読まない」というアイデアは，レッスン全体の中でセクション２と３が並列的にそれぞれ別のエピソードを扱い，その概要やメッセージを教科書本文が説明しているという構造だからこそできるとも言える。

④・⑤では，それぞれがした説明，また，聞いた説明と教科書本文を比較して読むことになる。「そういう言い方があったか」「うまいな」など，教科書本文の表現の仕方，説明の仕方の簡潔さと適切さを，実感を伴って感じることができるだろう。また，「そんなメッセージが込められていたのか？」「この漫画からそこまで読める？」と互いにつぶやきながら漫画と教科書本文を照らし合わせるように再度読み直すことで，教科書本文との対話も深まるだろう。

4．第６時の具体例

第４時が生徒同士の対話的な学びが中心であったとすると，第６時では，それに加え，教科書本文と向き合い，これまでの学習を生かして作者の作品に込めたメッセージや人生観を浮き彫りにしていく，いわば「テキストとの対話」も必要となってくる。*CROWN English Communication* では，各レッスンの最後のセクションは，それまでのセクションのまとめとして，扱われた内容の結論やメッセージ，要旨などをより抽象的な表現で英文にしている場合が多いので，既習のセクションの学習や授業の活動，補助資料などを振り返らせながら，英文が表そうとしていることを自分なりのことばでまとめさせるのに適している。ピーナッツの作者であるチャールズ・M・シュルツの人生観や作品に込められた思いは，“...true success lies in sensitivity to others, in small acts of kindness, and in the courage to hope even in the face of great difficulty.” というレッスン最後の一文に凝縮されている。高校１年生なりの語彙と表現力で構わないが，

> “If you want to feel good about yourself or satisfied with your life, you should think it important to do something for others, especially those who are in trouble.”

など，これまでの学習に自分なりの解釈も加えた英文で作者の思いを表現する活動を行うと，生徒の思考を促すとともにそれを英語で表現する活動が展開できるであろう。そして，生徒それぞれの解釈と表現を互いに読み合うことで発想の違いや表現方法の工夫について学び合う面白さを味わうこともできる。また，最後に What do you think is true success in life? として，教科書題材や本文を参考にしたり，作者の考えと自身の考えを対比したりしながらグループで自分なりの考えを伝え合うなどしてもよいだろう。

MY WAY English Communication

深く主体的な学びを導くために教師ができること

（*MY WAY English Communication I*　Lesson 2）

中島　利恵子

新島学園中学校・高等学校 教諭。群馬県内高等学校教諭を経て現職。
『英語教育遺産　群馬プロジェクト』（ジャパンライム社）でペアワークを効果的に使う授業を提案。

１．はじめに

授業を通して生徒の生きる力を育むことは，学校教育の中での英語を教える者の使命だと私は考えています。ここ数年，学校現場では「生きる力」を育てるという文部科学省の提言のもとアクティブ・ラーニング（以下 AL）を意識した授業改善が叫ばれています。しかし，研修に参加し授業参観をすると，学習する内容に関係なくほぼグループワークが取り入れられていることに時々違和感を覚えます。

「教師が一方的に教えてはいけない」という AL の考えが根底にあり，グループワークが取り入れられているのでしょう。しかし，最初に手法ありきでは大切なことが見落とされている気がします。生徒の学びを本質的に捉え，そしてその学びを導くのは私たち教師であることを忘れてはいけません。

２．深い学び・主体的な学びを考える

生徒の深い学び・主体的な学びを導くための方法を提案してみたいと思います。

（１）興味を引くオーラルイントロダクションを

題材を読む前に，生徒に何についての話を読むのか興味を持たせるイントロダクションをすることが大切です。この時に気を付けなくてはいけないのが情報を提示しすぎないこと。生徒が「もっと内容について知りたい」と思ってわくわくし始めるところで，題材を読むことに入っていきます。ここでオーラルイントロダクションとして活用できるのが本文の前にある写真と Before You Read です。ここには，生徒自身が自分のこととして捉え考えなくてはならない質問がのっています。これらの質問と写真を使用しながら，オーラルイントロダクションを行います。

T: Take a look at the picture on page 21. Can you see the man sitting between...?
S: Anpanman and Baikinman.
T: That's right. Did you read or watch the story of *Anpanman* when you were a child?
S: Yes!
T: What is your favorite character?
S1: Anpanman!!
T: Why?
S1: Because he is always kind and tries to help people.
T: Right!! The man sitting between Baikinman and Anpanman is Yanase Takashi. He created the story *Anpanman*. Do you know anything about Yanase Takashi? Do you know why he created this story, *Anpanman*?
S: ....（恐らく，ほとんどの生徒は知らない）
T: Yanase Takashi created *Anpanman* because he wanted to give some messages to us. What is the message? Now, let's read the text and get to know more about Yanase Takashi.

このようなイントロダクションを行うと，生徒は「やなせたかしさん？　知らなかったあ。」「どうして彼はアンパンマンを作ったのだろう？」と思いながら本文に入るようになります。自ら知りたい，という気持ちを持ちながら「主体的に」題材に取り組むようになります。

（２）内容理解では発問を工夫する

内容理解の英問英答の中での質問を工夫するだけで生徒はぐっと題材に入り込み，「主体的に」考えるようになります。例えば，教科書に書いてある内容について理解できているかのみを問う質問のみではなく，「あなたはどう思うか」という生徒の思いに寄り添う質問をしてみるのも効果的です。やなせたかしさんがストーリーやキャラクターを通して何を伝えたかったのか，という内容が本文ではこう書かれています。

Yanase thought that real heroes helped people in trouble. Real heroes do not always fight. They give food to hungry people even when they themselves are hungry. This thought came from his experience in World War Ⅱ.

教科書はやなせたかしさんの戦争体験についてここまでしか言及していません。ここで生徒に”What experience did he have? What do you think?”と聞きます。ペアで話し合いさせたあと，クラス全体でその意見をシェアしてもよいかもしれません。生徒がここでやなせさん自身に興味を持つようにこちらが仕掛けるのです。興味を持てば，生徒はもっと知りたくなります。

（３）背景知識を与える

さて，This thought came from his experience in World Ⅱ. という文について生徒が「どんな経験をしたのだろう？」と興味を持ったところで，やなせさん自身の実際の戦争体験を生徒に英語で語ります。やなせさんの著書によると，やなせさんは兵隊として戦争に行きました。そしてそこで空腹であることが何よりも惨めだったと語っています。またたった一人の弟が戦死した深い悲しみは年をとっても癒されず「戦争は絶対にやっちゃいけない。勝っても，負けても」と語ります。そして正義の味方がやらなくてはいけないことは飢える人を助けることだと主張します。このような背景知識を教師側が補いながら授業を進めていくと生徒はより深く題材について考え学ぶことになります。アンパンマンを通して，やなせさんが私たちに伝えたかったメッセージについて自ら答えを探すようになります。また深く学べば学ぶほど，もっと知りたいと思うようになります。授業後，「先生，その本を貸してもらえますか。」と紹介した参考文献を借りにくる生徒もいます。このように「深い学び」と「主体的な学び」は繋がっているのです。

（４）題材に関連した記事を読ませる

私は毎レッスン，「題材に関連した読み物」として新聞記事などを生徒に読ませるようにしています。こうすることで生徒の題材に対する学びがさらに深くなるからです。*MY WAY* には課末に OPTIONAL READING がついています。これを使わない手はありません。ここにはムーミンの著書であるトーベ・ヤンソンが取り上げられています。可愛らしいキャラクター，ムーミンで世界中から愛されているこのお話ですが，実はトーベ・ヤンソンはここに「反戦」という思いを込めています。この事実はアンパンマンを生み出したやなせたかしさんと同じです。生徒はこの記事を読み実は自分がよく知るキャラクターが生まれた背景には，その著者の思いがあることを考えるようになるでしょう。

（５）本文に関連した題材について調べ発表をさせる

生徒が題材に対して深く主体的に学んだところでグループ学習を行います。年に１，２度でもよいので行うとよいと思います。私はクラスを５，６人のグループに分けます。そして，各グループで調べたことをまとめ，パワーポイントを使用して発表させます。トピックは本文に関連した内容であれば何でもよいとして，生徒に選択をさせます。すると，生徒は学習してきた中で自分たちが疑問に感じたことについて調べて発表を行います。発表準備を通し，また他グループの発表を聞くことでさらに深く学ぶことができます。

３．おわりに

生徒の深い学びそして主体的な学びを導くのに必要なことは何か。それは私たち教師が，目の前の生徒がどうすれば題材と深く関わり目を輝かせて取り組んでくれるのか，ということを考えるところから始まるのだと思います。

［参考文献］
やなせたかし（2013）.『ぼくは戦争は大きらい』小学館．　やなせたかし（2013）．『何のために生まれてきたの？』PHP 研究所．　やなせたかし（2013）『わたしが正義について語るなら』ポプラ新書．

VISTA English Communication

「深い学び」の実現を促す教師の仕掛け

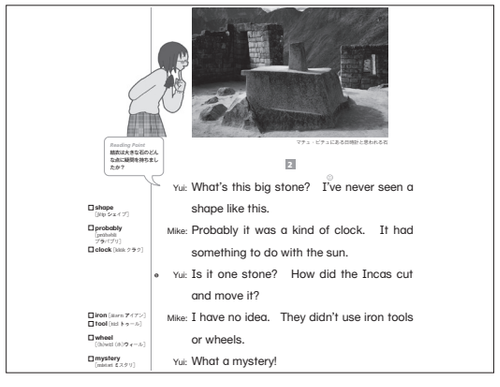
（*VISTA English Communication I* Lesson 7）

工藤　洋路

玉川大学文学部英語教育学科准教授。私立高校教諭，大学講師を経て，現職。ELEC 同友会英語教育学会ライティング研究部会部長。中学校検定教科書 NEW CROWN 編集委員。

1．「本文」を使って「深い学び」へ

本稿では，*VISTA English Communication I New Edition* を用いて，アクティブ・ラーニングを促進するための「深い学び」を引き起こす具体的指導方法を提案したい。「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の教科書の構成は，主としてレッスンごとに「本文」があり，「読む前のウォーミングアップまたは背景知識の活性化を促すPre-readingの活動」，「理解確認のための質問を読みながら解答するなどのWhile-readingの活動」，そして，「要約作成やコミュニケーション活動など本文を読んだ後に行うPost-readingの活動」が，それぞれ教科書に設定されている。これらの活動を順に行うことで，基礎的な英語力の向上が見込めるが，本文の理解をさらに深め，そして，生徒たちが発信する英語の量や質をさらに高めるためには，教師による何らかの「仕掛け」が必要となる。そして，この仕掛けによって，生徒の「深い学び」を促すことが可能になる。本稿では，その深い学びを誘発するための具体例を，世界遺産のマチュ・ピチュの話題を扱っている Lesson 7 の Section 2（p.60）を使って提案していく。


マチュ・ピチュにある日時計と言われる石

Reading Point 結衣はスキなるものどんな点に疑問を持ちましたか？

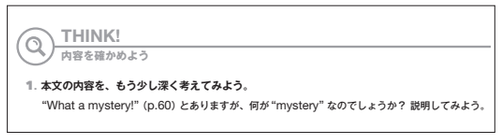
2

Yui: What's this big stone? I've never seen a shape like this.
Mike: Probably it was a kind of clock. It had something to do with the sun.
Yui: Is it one stone? How did the Incas cut and move it?
Mike: I have no idea. They didn't use iron tools or wheels.
Yui: What a mystery!

□ shape [シェイプ]
□ probably [プラバブリ]
□ clock [クラク]
□ iron [アイアン]
□ tool [トール]
□ wheel [ホウィール]
□ mystery [ミスタリ]

2．本文に関わっている「人」にフォーカスする

このレッスンでは，各セクションで，マイクと結衣がマチュ・ピチュの写真を見ながら会話をしている。Section 2 では，日時計と思われる写真を見ながら，昔の人たちがどうやって大きな石からこのような時計を作り上げることができたのかを話し，結衣が「謎だね」（What a mystery!）と発言して，このシーンが終わっている。この発言について，教科書にはレッスンのまとめのページ（p.62）に次のような活動が掲載されている。


THINK!
内容を確かめよう

1. 本文の内容を、もう少し深く考えてみよう。
"What a mystery!"（p.60）とありますが、何が "mystery" なのでしょうか？ 説明してみよう。

THINK! という名の通り，この「説明してみよう」という問いかけ自体が「深い学び」を促すための発問と言える。なぜ「深い学び」になるかというと，本文の中の英文や語句をそのまま抜き出しても，この問いかけの答えが作れないため，生徒が自ら内容を考えて，（可能であれば英語で）答える必要があるからである。行間を読んで答える活動になるため，かなりハードルが高い活動となる。このような活動に取り組めるようになるための前段階の活動として，より平易なものを次に提案してみる。

まずは，とくに対話文を扱う際には，その発言をした人物の感情や気持ちを生徒に考えさせたい。生徒に，*How does Yui feel?* などの質問をしてみる。最初は，教科書に書いていない情報を答えるのは難しいと感じる生徒が多いため，まず簡単な英語で答えられる質問を用意したい。このようなオープンな尋ね方では答えが言えない場合は，*Do you think she is happy? Or, do you think she is surprised?* など，選択肢を与えて考えさせるとよい。ここは *Surprised.* や *Excited* などが望ましい回答になるが，このように，答えが必ずしも1つとは限らない質問を投げかけることも深い学びを促すための仕掛けとなる。

また，テキストの一部分だけではなく，全体を見渡して，答えを導くような発問も用意したい。特に対話文の場合は，登場人物の関係性や彼らの状況を，対話の内容から推測させてみるとよい。例えば，*Who knows more about Machu Picchu, Mike or Yui?* という発問に対しては，対話を再度読み直し，全体を捉えないと回答が出ない。回答自体の英語は *Mike knows more.* という簡単なもので済むので，テキスト全体を見渡して答えを出すような発問に慣れていない生徒でも取り組みやすい。似たような質問として，*Do you think Mike has visited Machu Picchu before?* なども考えられる。この質問への明確な答えは，この対話からは導き出せない。おそらくは，マイクが *I have no idea.* と言っているので，*No, he has never been there.* が考え得る答えとなるだろう。定まった答えがなくても，それを探す目的で本文を読むことで，本文の深い理解が達成できれば，このような発問を行う意義は高い。

別のレッスンではテキストがモノローグの場合があるが，*Who do you think wrote this passage?* や *Who do you think this passage was written for?* など，著者情報がない場合はそれを誰が書いたか，あるいは，その本文は誰に向けて書かれたものだと思われるか，などを考えさせることも可能である。繰り返しになるが，大切なことは，発問に答えるために，新たな視点で本文を読み直させることであり，それにより，英語によるインプットが強化されるとともに，思考力の養成にも繋がることになる。

3．本文に文や語句を補う

「コミュニケーション英語」の教科書の本文は，語数の制限などの理由で，原文の一部を削って本文を作っている場合がある。また，書きおろしの場合でも要約のような文章になっているケースが多い。その場合は，この制約を逆手に取って，文章を広げる活動をしてみてはどうか。言い換えると，文中に本来はあるべき内容を補ってみる活動となる。以下にいくつか例を挙げる。

例えば，結衣の2つ目の発言の最初は *Is it one stone?* であるが，この疑問文に対する回答を次の文（*How did the Incas cut and move it?*）の前に入れさせてみる。次の文の意味を考えさせることで，Yes. が隠れていたことに気づく。1つの石でなければ，2つ以上の石を合わせたものになるが，次の文で「切る（cut）」と言っているということは，もっと大きな1つの石があって，それを切って，写真にあるような形ができたということが読み取れる。これが読み取れたら，さらに「深い思考」を促す発問を試してみる。*You have a big stone. How can you cut it? And, how can you move it?* という質問をしてみる。次のマイクの発言に意識が向けば，*I can cut it with iron tools.* や *I use wheels.* などが答えとなる。この発問をした上で，このマイクの言った文を使って，次のような空欄補充の問題を作ってみる。

> They didn't use iron tools to（　1　）it or wheels to（　2　）it.

（ 1 ）には cut，（ 2 ）には move が入るが，最初にこの会話を読んだ際に，文字通りの意味の理解ができた生徒でも，iron tools が「切る」ためのもので，wheels が「運ぶ」ための例として出されていることに気がつく生徒は少ないのではないだろうか。その「気づき」を誘発するためには，その仕掛けとして，上記のような発問や空欄補充の問題を教師が作っていくことが求められる。

本文に英語を加えていく活動としては，特に対話の場合，その続きを考えさせることも有効であろう。ペアで考えた上で，スキットとして発表させてもおもしろい。「深い学び」を引き起こすには，本稿で紹介した例のように，発問の答えを導くために，新しい目で本文に立ち返り，そこに根拠を見出した上で，自らが考えた英語を発信することが必要となる。

CROWN English Expression

授業＋家庭学習で「主体的な学び」を

（*CROWN English Expression I*　Lesson 10）

津久井　貴之

お茶の水女子大学附属高等学校 教諭。群馬県内中学校，国立大附属中学校，中等教育学校教諭，県教育委員会指導主事を経て現職。2011 年（財）語学教育研究所よりパーマー賞受賞。

1．主体的な学びが起きている場面とは

「主体的な学び」と聞いて，具体的な活動や生徒のどのような姿を思い浮かべるだろうか。生徒にいきなり全てを任せなくとも，生徒が目的や自身の英語学習上の強みや弱みに応じて，自ら能動的に英語の活動や学習に関わっていたり，学習方法や表現方法を選択していたりすれば，そこには程度の差はあれ，主体的な学びが起きているのではないだろうか。また，生徒の主体性が十分に伸長されれば，それは，当然授業外の場面においても自発的継続的に英語学習がなされるはずである。

日々の授業の中で行う活動に「主体的な学び」の要素を取り入れる工夫及び授業と家庭学習という２つの視点から具体的に検討してみたい。

2．日頃の活動に主体的な学びの要素を取り入れる

（1）教科書本文の扱い方を工夫する

レイチェル・カーソンとその著書，Silent Spring を紹介した本文には，様々な接続詞が用いられている。太字で書かれた接続詞の日本語の意味や全訳が書かれているこのページも下記のような活動を取り入れることで，生徒の主体的な学びを促す要素を入れることができるだろう。100 語程度の英文にさまざまな接続詞が凝縮されており，有効に活用したい。

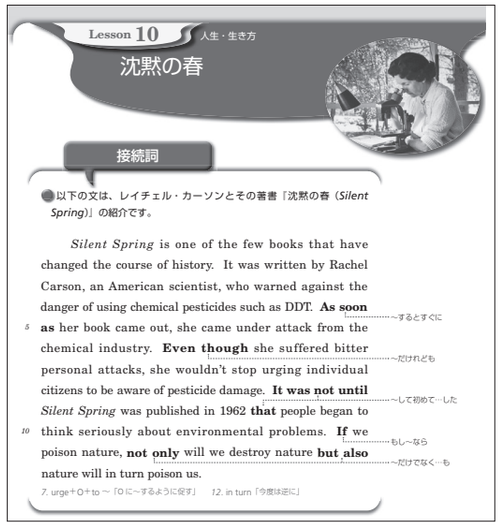
【活動案 A】

① 教科書を開かず，英文を聞かせ内容を想起させる。

② 太字になっていない本文テキストをプリントとして配布し，概要確認のための Q ＆ A を行う。

③ 接続詞の入った全く別の例文を例示し，本文中の接続詞に下線を引かせる。

④ グループになり，答えを確認する。教師は答えをチェックし，早く解答できた数グループの生徒がアシスタントとして，残りのグループに出向き，解答のヒントや説明を行う。



Lesson 10　人生・生き方

沈黙の春

接続詞

以下の文は，レイチェル・カーソンとその著書『沈黙の春（*Silent Spring*）』の紹介です。

Silent Spring is one of the few books that have changed the course of history. It was written by Rachel Carson, an American scientist, who warned against the danger of using chemical pesticides such as DDT. **As soon as** her book came out, she came under attack from the chemical industry. **Even though** she suffered bitter personal attacks, she wouldn't stop urging individual citizens to be aware of pesticide damage. **It was not until** *Silent Spring* was published in 1962 **that** people began to think seriously about environmental problems. **If** we poison nature, **not only** will we destroy nature **but also** nature will in turn poison us.

～するとすぐに
～だけれども
～して初めて…した
もし～なら
～だけでなく…も

7. urge＋O＋to ～「Oに～するように促す」　12. in turn「今度は逆に」

【活動案 B】

① 本文の英文の一部を空欄にし，接続詞や代名詞，文脈を手がかりに正しい順番に並び替える。その際，接続詞が使われた別の例文を，接続詞の意味が推測できるようなヒントとして用意しておく。

例）Silent Spring is one of the few books that have changed the course of history. It was written by Rachel Carson, an American scientist, who warned against the danger of using chemical pesticides such as DDT. ［ A ］, she came under attack from the chemical industry. ［ B ］, she wouldn't stop urging individual citizens to be aware of pesticide damage. ［ C ］ that people began to think seriously about environmental problems. ［ D ］, ［ E ］ but also nature will in turn poison us.

1) It was not until Silent Spring was published in 1962

2) As soon as her book came out

3) Not only will we destroy nature

4) Even though she suffered bitter personal attacks

5) If we poison nature

② ペアやグループで各自の答えを確認する。その際選んだ根拠を説明し合うようにする。

（CD を聞いて答え合わせをしてもよい）

③ 接続詞を用いて，自作の例文を作り，発表する。

【活動案 C】

① Lesson　9 と 10 の教科書本文がベタ打ちされたプリントを用意し，４人グループ内でペアを作ってどちらかのレッスンの担当となる。「この本文を使って相手のペアに接続詞（L10），仮定法（L9）を分かるように授業する」というタスクを与える。

※生徒がこのようなタスクに慣れていれば，教師は各ペアが行おうとする説明や活動などにアドバイスをしてまわるだけでよい。

※ペア同士で説明をして終わりにせず，説明を聞いたペアに再説明させるなどするとよい。

（2）例文・問題の扱い方を工夫する

「例文を読ませて意味を確認させるだけ」や「問題を解かせる，穴埋めをさせるだけ」には，主体的な学びの要素が入る余地はあまりない。以下の工夫をして，少しでも生徒の学びの主体性を高めたい。

【活動案 A】

Grammar のページの例文の前後に文脈を付ける。

例えば，As far as I know he is the best dentist around here. の he とは誰だろうか？ 実際の歯科医の名前を入れて，Do you know ○○ next to the police station? As far as I know... というような英文を生徒が考えて付ける。例文によっては，Now that the term exams are over, I'm going to relax. の下線部を生徒自作の例文に変えるなどもできるだろう。１人２つ以上の例文を選んで作り，その後，作成した文と例文の文脈を読み合い，発想や文脈の自然さなどについて指摘し合う活動とすることもできる。

【活動案 B】　Exercises の問題に文脈を付ける。

問題を解き，答え合わせ後，生徒は英文を１つ選んで読み上げる。ペアのもう一人は，何も見ないで文脈を付けてそれに応答する。例えば，

生徒 *A*：What is important in life is not money but love.（教科書の英文）

生徒 *B*：I disagree. Money can save a lot of people, I think.

などとする。口頭が難しければ，書かせる形でもよいだろう。慣れてくると，

生徒 *A*：Oh, really? If so, why are there so many people suffering from poverty in the world?

生徒 *B*：Well, if rich people can use the money for them, the situation will be better.

とさらに切り返すなどして簡単なインタラクションに繋げることもできる。大切なのは，うまくいかない時にこそ学びが起きるので，うまくいかなかった時は振り返り，どのように言うことができるか，ペアで考えて書いてみてもいいよ，という所までを教師が指示しておくことだ。

（3）家庭学習と授業中の活動を連動させる

「主体的な学び」や「学びに向かう態度」が醸成されれば家庭学習にも変化が起きるはずだ。あるいは，そのためにも家庭学習のさせ方を工夫し，主体性を伸ばすための仕掛けをしたい。例えば，

・上記２の活動案とタイアップして，Grammar の例文から１つ選んで文脈を付けてくる。

・接続詞を２つ以上用いて短いスキットを作ってくる。（説明や本文のページを参考に）

・接続詞の問題を１問作ってくる。

など，さまざまなアイデアが考えられる。主体的な学びに向かう家庭学習のポイントは，生徒に選択の余地があるか，各生徒の発想やこだわりを生かせる余地があるか，家庭学習で行ったことが授業で生かせるか，であると考える。

宿題や家庭学習では，生徒は学び方も学ぶ。また，自ら学ぶことの難しさや楽しさを経験する貴重な機会である。目的が失われ，「教師が授業を進めやすくするための準備」になることのないよう，常に修正や改善を図りたい。

MY WAY English Expression

少しの工夫で生徒の学びを主体的で深いものにする

（*MY WAY English Expression I* Lesson 6）

中島　利恵子

新島学園中学校・高等学校 教諭。群馬県内高等学校教諭を経て現職。
『英語教育遺産　群馬プロジェクト』（ジャパンライム社）でペアワークを効果的に使う授業を提案。

1．はじめに

授業は料理に似ていると私は思います。料理を作るときは，食べる人の幸せそうな顔を想像しながら作ります。授業作りも同じです。こんな活動にしたら生徒が興味をもって楽しそうに取り組むかなと想像しながら作ります。興味を持てばそこから生徒は自ら学んでいきます。そしてほんの少しの手間とスパイスで味が驚くほど変わってくるのと同じで，ほんのちょっと活動に工夫を加えるだけで生徒が生き生きと取り組むようになります。

英語表現では文法を学ぶことが主体ですが，文法の説明だけでは生徒も教師も飽きてしまいます。せっかくコミュニケーションの幅を広げるために学ぶ文法も使えなければ意味がありません。何も大それたことを毎日のレッスンの中で行うことはありません。しかし，いつもの活動に少しだけ変化をつけてみる。すると生徒の顔がパッと輝く瞬間があることを忘れてはいけないと思います。

今回は *MY WAY English Expression* より助動詞に焦点をあて，活動に工夫を加えることで生徒が主体的にかつ深く学べる方法を提示していきます。

2．なぜ？を大切にする

高校生になって学ぶ助動詞の大切な表現の一つに「助動詞＋ have ＋過去分詞」があります。これを生徒に提示する時に，私はいつも生徒に教科書を閉じさせてこう話します。「あなたがお薦めのテレビの番組があるとします。これを観るべきだと相手に言う場合は何と言いますか？」大概の生徒は *You should see the TV program.* と答えます。「では，観るべき番組を薦めておいたのに相手が観なかった。なんで！？ 観るべきだったのに！ と相手に憤慨して残念な気持ちを伝えたい，何て言いますか？」大概の生徒は黙ります。中には声を荒らげて *Why didn't you see the program?* とか *Didn't you see that?* と言う生徒もいます。とてもよい答えです。「では，せっかくだから should を使ってみましょう」と言うとザワザワします。そこで，今までの自分の持っている知識ではその「過去に対する残念な気持ち」を表現することはできないと生徒は知るのです。ではどうすればいいのだろう？という目でこちらを見ます。

このように疑問や「知りたい」という気持ちを持たせてから新しい表現方法を伝えます。「はい，この形を覚えてね。こういう意味だから」と教師から一方的に教えるより，生徒がまず自分で考える機会をこちらで設けると生徒はより興味を持ち新しい文法を学びます。

3．コンテクストを大切にする

文法を学習する，と言ってもコンテクストがない状態で学ぶのは大変なことです。なぜなら，コンテクストがなければ学習する例文そのものが意味をなさない場合も出てくるからです。意味のない文章を「覚えなさい」と言われるのはモチベーションが下がるものです。*MY WAY* の素晴らしいところは，各レッスンにテーマが設けられており，内容を大切にしている点です。Lesson 6 の助動詞 1 では「水族館に行く」というコンテクストが与えられ，そこで行われる会話が出てきます。例文や Exercise にいたるまで水族館に関係する内容で統一されています。この利点を効果的に利用し，インプットからアウトプットのすべての流れの中で「水族館」をテーマにして扱っていきます。「はい，今日は助動詞です」ではなく *Have you ever been to an aquarium?* と始めてみてください。生徒は必ずこちらを見ます。

4．「自分の言葉」で発信する場を設ける

例文や Exercise で英文の音読練習をしたあと，生徒が自分の言葉で発信する機会を設けます。実際に使うことでより深い定着が図れます。Lesson 6 では「水族館」に関係した例文を練習するので，それに関係した会話をペアで作ることにします。このペアでの会話の内容は，教師が作る英文をコントロールする場合と，自由に生徒に作らせる場合と２パターン考えられます。学んでもらいたいターゲットセンテンスを入れて会話をコントロールしたい場合，私がよく取り入れているのは他の人物になりきる「なりきり会話」です。この「なりきり会話」は英語で表現することに少し消極的な生徒が多いクラスでは有効な手段です。他の人物になりきるので，かえって自己表現がしやすいのかもしれません。この活動を行うときに大切なことは，生徒がすぐに作れる短くて簡単な英文であること，またターゲットセンテンスが入っていることです。やり方は以下の通りです。

1．教師が設定を生徒に口頭（英語）で伝える。
2．教師が日本語を言う。
3．生徒はその場で英語にしてみる。
4．その後，すぐに教師が英語を言う。
5．教師の英語のあとに生徒は繰り返す。ここで何度か練習しても良い
6．教師が日本語を言い，生徒がその場で英語にして会話をする。

教師も本気でなりきって日本語を言うことが大切です。生徒も気持ちを込めて英語で会話をするようになります。６までできたら，最後は教師が設定を英語で話し，すぐに英語のみで会話をしていきます。時には，他の英文を自分で自由に入れて会話をさせることもあります。

では「水族館に行く」というテーマの助動詞のレッスンにおいて例を以下に示します。ペアで行うので，生徒を Students A と Students B とします。

Students A, you are a mother. Students B, you are a 10-year-old son. Today, you came to an Aquarium. You are very excited because now you are watching the dolphin show.

Son：わくわくするね！➡ I am excited!
Mother：同じく！➡ Me, too!
Son：お腹すいた。これ食べていい？
➡ I am hungry. Can I eat this?
Mother：いいえ，ここで食べてはいけないのよ。
➡ No. You（We）must not eat here.

これだけの文章ですが，耳から聴いてその場で英語にしていくので即興性を求められます。生徒は脳をフル回転させて会話をすることになります。こちらがコントロールをすることによって，生徒が主体的に取り組む場を人工的に作り出す活動ですが，生徒は前向きにそして楽しそうに取り組みます。

この「なりきり会話」はライティング活動にも応用できます。生徒が主体的に書くためには，まず生徒が「書きたい！」と思うトピックでなくてはなりません。しかし適当なトピックを探すのが結構大変だったりします。そこで他の人になりきって書く「なりきりライティング」を活用します。先ほどの「水族館」のトピックを使用して一例を挙げます。生徒には「水族館のスタッフ」になりきってもらい水族館のルールとショーについて放送をする，その原稿を書くのだと説明します。以下のような設定を書いたハンドアウトを配布します。

> You work at the aquarium. Now you are going to make an announcement about rules in the aquarium. Also, there are some shows in the afternoon and you really want people to see them. You have to start: Welcome to our aquarium!

この「与えられた条件のもと，他の人物になりきって表現する」という活動は，生徒が前むきに取り組むお薦めの活動です。ぜひ，明日から取り入れてみてはいかがでしょうか。ほんのひと工夫の授業で，生徒は必ず変わっていきます。

SELECT English Expression

「対話的な学び」で基礎的な英語力を育む

（*SELECT English Expression I*　Lesson 6）

工藤　洋路

玉川大学文学部英語教育学科准教授。私立高校教諭，大学講師を経て，現職。ELEC 同友会英語教育学会ライティング研究部会部長。中学校検定教科書 NEW CROWN 編集委員。

1．「対話」とは誰と誰の対話か

本稿では，*SELECT English Expression I New Edition* を用いて，アクティブ・ラーニングを促進するための「対話的な学び」を引き起こす具体的指導方法を提案したい。まず，「対話的」が含意するものを考えてみたい。英語の授業における「対話」といった場合，「教師と生徒」および「生徒同士」の対話が容易に想像される。また，「対話的」という表現からは，疑似的な対話も想定可能であるので，「生徒とテキスト内の登場人物」の対話や「生徒とテキストの書き手」の対話なども考えることができる。さらに，個人の中で「自分と自分」の対話というのも想定できる。いずれにせよ，対話を通して，情報や考えや気持ちなどを二者の間で行き来させることで，何らかの学びを引き起こすことが「対話的な学び」であると言えよう。以下，「対話的な学び」を誘発するための具体例を，Lesson 6（pp.30-31）（「現在完了形②：完了／現在完了進行形」）を使って提案する。

2．「教師と生徒の対話」で文法の理解を深める

ここでは，p.31 の Speak Up! の活動を取り上げる。

Speak Up!　自分のことを言ってみよう

下線部に語句を入れて，対話をしてみよう。

A：How long have you been ＿studying English＿ ?

B：I ＿have been studying it＿ for ＿four years＿ .

この活動は，文法のターゲットが「現在完了進行形」であるので，このままでは，実際のことを伝え合うことは難しい。なぜなら，現実は，英語の授業で英語を勉強している最中のため，A は例と同じ How long have you been studying English? を入れ，B は I have been studying it for 30 minutes. のように授業開始からの経過した時間を言うことになってしまう。そこで，p.30 の「イントロ英会話」のモデルを参照させ，まずは，以下のように「教師と生徒の対話」を通して，文法を使う場面についての生徒の理解を深めるやり取りをしてみる。

イントロ英会話　純とリサが，文化祭で踊るよさこいソーラン節について話しています。

Jun：Oh, I'm so tired. We'**ve** just **finished** today's rehearsal of *Yosakoi*.　あー，疲れた。たった今，今日のよさこいの練習が終わったところなんだ。

Lisa：How long **have** you **been practicing** today?　今日はどのくらい練習をしていたの。

Jun：We'**ve been rehearsing** all day.　一日中リハーサルをしていたんだ。

教師：「どのくらいの時間や期間，～している？」と聞くときがあると思いますが，いきなりその質問をしますか？「イントロ英会話」では，How long ～？ の文で始まっていますか？
生徒：始まっていません。
教師：会話のスタートは誰のどんな発言ですか？
生徒：Jun の「疲れた」という発言です。
教師：はい。続けて「今終わったとこ」と言っているので，Lisa は「では，どのくらい練習していたの？」と聞きたくなったわけですね。How long ～？ を使う時は，何か前提や状況があるわけですね。他の例として，How long have you been practicing the piano? という文だったら，この前提となる発言や状況は，どんなことが考えられますか？
生徒：…
教師：例えば，友だちに「ピアノどのくらい習っているの？」と聞きたい時があるとすれば，それはどんな時ですか？　何も状況などがないのにこの質問はしませんよね。
生徒：その人がピアノを上手に弾いているのを見たときですか？
教師：そうですね。「ピアノ弾くの上手いね」を英語で言うと？
生徒：You're good at playing the piano.
教師：その後に「どのくらい練習しているの？」を付けて，２文で合わせて言ってみると？
生徒：You're good at playing the piano. How long have you been practicing the piano?

このように，特に文法の使用場面については，「教師と生徒の対話」の方が，一方的な教師の説明よりも，生徒の理解を深めることができる。

3．「生徒同士の対話」で英語を使う場面を考える

「教師と生徒」の対話を経て，Speak Up! の活動を次のように加工したものを，ペアワークで行わせる。「前提となる発言」を A さんが言うパターン（1）でも，B さんが言うパターン（2）でもどちらでも構わないことをペアに伝えて，活動を開始させる。

＜パターン１＞
A：（前提となる発言）. How long have you been ＿＿＿＿＿＿＿＿＿?
B：I ＿＿＿＿＿＿＿＿＿ for ＿＿＿＿＿＿＿＿＿.
A：（リアクション）.

＜パターン２＞
B：（前提となる発言）.
A：How long have you been ＿＿＿＿＿＿＿＿＿?
B：I ＿＿＿＿＿＿＿＿＿ for ＿＿＿＿＿＿＿＿＿.
A：（リアクション）.

この活動では，前述したとおり，今現在のことを話すことを求めるのではなく，状況や場面を考えて実際にあり得る対話を完成させて，スキット発表のような形態で発表させるとよい。この対話を完成する際には，ペアの中で，単に英語の正確さだけを話し合うだけではなく，現在完了進行形を使う場面や状況について話し合う必要がある。正確性だけを求めると，つまり，正しい１つの答えを考えさせると，ペアの中で英語力が高い方の生徒がもう一人の生徒に一方的に教えるというやり取りに終始してしまい，「対話による学び」があまり起こらない。場面や状況をペアで考えさせる活動では，１つの唯一の正解があるわけではないので，より適切なものを求めて「対話」を深める必要があり，その中で，お互いの学び合いが可能となる。

活動をペアワークで行う際，うまく進められないペアに対してどのように教師がサポートするかも大切になってくる。例えば，上記の＜パターン１＞と＜パターン２＞のどちらを使うかを迷うペアもいるだろう。２つのパターンを与えることで，どちらを使うかを選択するための話し合いを引き起こすという教師側の意図があったが，これが難しい場合，「イントロ英会話」に倣ってみることを助言することもできる。また，A の疑問文が浮かばないペアには，「宿題をしなくてはいけない小学生が，長時間テレビを見ている場面で，お母さんは何と言う？」と場面を具体的に与えてあげてもよい。このように，ペアでの対話を進めるためのきっかけを教師が提示していくことが大切になる。

4．効果的な「対話」を引き起こすための留意点

（1）ベースとなる日々の基礎活動

「対話」を実現するために，日々の授業でその下地を作っておきたい。具体的には，人の話をしっかり「聴く」という習慣を身につけさせたい。例えば，次のようなやり取りを行いたい。

（p.30 の⑫の例文を使って）
T：Okay. Repeat. "He has been playing the piano for ten hours."
Ss：（リピート）
T：（サッカー部の A 君を指名して）Okay. A-kun. How long have you been playing soccer?
S1：For seven years.
T：Oh. Seven years. Say it in a sentence.
S1：I have been playing soccer for seven years.
T：（別の一人を指名して）B-kun. How long has A-kun been playing soccer?
S2：A-kun has been playing soccer for seven years.

このように，一人の生徒が言ったことを別の生徒が言う活動をレポーティングと呼ぶが，しっかりと他の生徒の発言に耳を傾けていないと，この活動はスムーズに進まない。常に，相手の話を聞く習慣を身につけさせることが，ペアワークやグループワークでの「対話」を成功させるための基礎となる。

（2）日本語から英語へ

高校の授業は学習指導要領では「英語で行うことを基本とする」と謳われているが，『学習指導要領解説』では「言語活動を行うことが授業の中心となっていれば，文法の説明などは日本語を交えて行うことも考えられる」との記載がある。説明の部分や話し合いの部分は日本語に頼らざるをえない場合もあるが，2. で示した教師と生徒の対話のように，最後は生徒に英語を言わせるようにすることを心がけないと，英語力の向上には繋がらない。3. で示した生徒同士の対話も，英文を最終的に作って，それを発表するためのものである。理解の段階や話し合いの段階では，日本語を使いながらも，徐々に英語の文を産出させ，その後に，意味のやり取りが行われる言語活動（真のコミュニケーション活動）に取り組む流れを作ることが大切になる。

中学英語 まるまる総復習 BOOK

木村達哉 著

B5判　136ページ　1,000円

音声CD付

●**単語編**　中学英語のうち重要単語300語を厳選しました。1ユニット60語からなり，全5ユニットで重要単語の定着を図ります。

●**文法編**　中学英語の文法事項を項目ごとに復習します。各文法事項を4技能（読む・聞く・書く・話す）でバランスよく学習できます。

●**長文編**　全4ユニットからなる仕上げの長文読解のパートで，学習後に同じ英文を再度読む「TRY AGAIN」でしっかりと確認ができます。

◎付属品
▶チェックシート（単語編・文法編）
▶確認テスト（長文編）　▶本文データ

中学英語 まるまるリスニング BOOK

「導入編」「練習編」「実践編」の3ステップで丁寧に段階を追って学習をすることで着実にリスニング力がUP!
中学校教科書の文法配列・題材に配慮して英文を作成!

木村達哉 著

基礎　B5判　104ページ　880円
（別冊解答・解説 24ページ）

標準　B5判　104ページ　880円
（別冊解答・解説 32ページ）

◎付属品
▶全スクリプトのテキストデータ
▶ディクテーションシート
（2種類・データ提供）

クラウン　発信力をアップさせる新世代の英単語帳

チャンクで英単語 Basic・Standard・Advanced

2色刷　B6判　赤シート付

音声無料ダウンロードあり

東京外国語大学教授　投野由紀夫 編

Basic	高校基礎対応	288ページ	750円
Standard	センター対応	336ページ	840円
Advanced	難関大学対応	408ページ	1,000円

iOS アプリもあるよ!

チャンク学習で4技能を飛躍的にアップ!

発信力を高める2ステップ!

充実の単語情報!

※チャンク：句や節などのかたまり

三省堂高校英語教育 2017年夏号 別冊

［発　行］　2017年6月15日
［編集・発行人］　北口 克彦
［発行所］　株式会社 三省堂
〒101-8371　東京都千代田区三崎町 2-22-14
電話 03（3230）9411（編集）・9412（営業）
★三省堂教科書・教材サイト http://tb.sanseido.co.jp/